

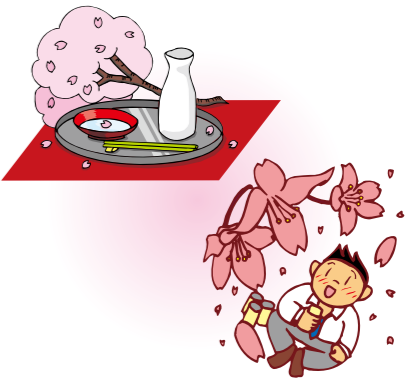
まちの話題

馬見原東部老人会花見

5月2日、馬見原東部老人会（古川俊次会長）の恒例の花見が開催されました。会場となったのは、宮崎県との県境にほど近い岩野尾地区の八重桜の木の下。各家庭自慢の手作り料理な



どを持ち込んで、満開となった八重桜を見ながら、楽しくお酒を酌み交わしました。馬見原東部老人会では、毎年、馬見原小学校の児童との交流が続けられています。今年も児童と米作りソバづくりを行う予定だそうです。



人権の花伝達式

4月20日、清和小学校で「人権の花」運動伝達式が行われました。この運動は、花を育てることを通して、命の大切さを学び、思いやる心を育てることを目的としています。郡内の人権擁護委員などで構成される上益城人権連絡会が、毎年管内の小学校で実施しており、今年度は清和小学校で行われます。伝達式では、人権キャラクター「KENちゃん」がひまわりやあさがおなどの種とプランターを児童の代表に手渡しました。秋には育てた花の種を風船で飛ばす計画です。



島木で里山体験

4月23日、里山の新緑を体験する催しが開かれました。島木自治振興区が主催、受付などを「島木のおみせ」が担当して募集したところ、50名を超える参加者がありました。午前中は木鷲野地区にてタケノコ、ゼンマイ、ワラビ、たらの芽など山の恵みを探りました。益城町から参加した橋本れい子さんは「知り合いを通じてもう何回も参加している。なかなか採る機会はないので楽しい。」と袋いっぱい山の菜を収穫していました。このあと、サトイモ植えを体験した一行。午後は茶インストラクター協会の茶講座で茶もみなども体験しました。



馬見原追分唄祭

4月29日、馬見原公民館において「民謡馬見原追分唄祭」が開かれ、今年も素晴らしい歌声が馬見原のまちに響きました。馬見原自治振興区女性の会（後藤サドリ代表）が主催して行う、3回目となるこの唄祭り。県内はもとより宮崎県日向市などから104名の参加がありました。唄祭に先立ち、女性の会のみなさんが「馬見原追分」を披露しました。また、会場には、女性の会で育てた美しいポタンの花が並んでおり、歌声に花を添えました。



三ヶ先祖祭り健康講話

4月9日、三ヶ日南田地区で、先祖祭りが行われました。この祭りには地区の方々をはじめ、三ヶ地区に縁のある熊本市や西原村の方など50名が参加、桜の花を眺めながらそれぞれの先祖に思いを寄せました。また、この日は特別に健康講話が開かれました。講師は、伴病院理事長伴俊幸さん。伴さんも当地域に縁があつて毎年参加されているそうです。講話では糖尿病や認知症などについて、参加者にわかりやすく説明されました。



祭りの様子（写真内が伴俊幸さん）



チェントミリアかみつえ

「クルマと文化の融合」をテーマに毎年春、阿蘇くじゅう国立公園周辺で開催される、世界の名車によるツーリングイベント「チェントミリアかみつえ」。今年4月16日、17日に開催され、山都町では馬見原商店街、道の駅清和文楽邑がツーリングのスタンプポイントの会場となりました。トヨタ2000GT、ホンダS600、ボルシェ、ロータス、アルファロメオなど往年の名車47台が新緑の山都路を駆け抜けました。各スタンプポイントでは、東日本大震災被災地への募金活動も行われていました。



青葉の瀬で川開き

5月3日、青葉の瀬川開きが行われました。朝9時から行われた釣り大会や、みずのトラB E L L 隊による田舎風おかまビザやカヌー無料体験などが行われ、参加者は新緑眩しい青葉の瀬の清流を楽しみました。また、旧小峰小学校ではグラウンドゴルフ大会が開催され、地域の方々などが楽しく交流しました。



緑仙峡釣り大会

5月5日、緑仙峡フィッシングパークで釣り大会が行われ、ゴールデンウィークを利用し宿泊された方や地域の方々など約40名が、大物目指して釣り糸を垂らしました。フィッシングパーク内にはたくさんのお鮎が放流されており、参加者だれもがバケツいっぱいになるほどの釣果でした。



今年の豊作を祈願 献茶祭

5月2日、小一領神社で茶生産者や関係者らが出席し、恒例の献茶祭が行われ、今年の山都茶の豊作と、昨年の全国茶品評会での農林水産大臣賞や産地賞受賞につづく今年の上位入賞を全員で祈願しました。神事を終えたあと、主催者を代表して山都町茶振興会の藤原徳門会長が「冬の寒さで適期は遅れたが、今年も良質の茶葉が収穫できそうです。生産者の皆さんとともにいいお茶を作って、昨年に続き品評会での好成绩を残したい。」とあいさつしました。

